

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770101598		
法人名	株式会社 北陸福祉医療開発		
事業所名	グループホーム レインボー2		
所在地	石川県金沢市入江2丁目210番地		
自己評価作成日	令和5年2月11日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)エイワイエイ研究所
所在地	金沢市無量寺5丁目45番地2 サンライズⅢ106号
訪問調査日	令和5年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の思いを聞きながら、役割や生きがいを見つけるお手伝い出来るように支援している。コロナ禍で外出は控えているため、ホーム内で誕生会や氷室の日、土用の丑の日、クリスマス会などの行事で少しでも楽しんでいただけるように努めている。今年度も入居者様の重度化により、かかりつけ医やご家族様と相談し、ご家族の思いを尊重し、ホーム内でできることを行い、看取りの対応をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にもあるように、施設での生活がこれまでの生活の延長上になるよう、のんびりと穏やかに過ごしてもらえよう、役割や生きがいを感じてもらえよう、一人ひとりの思いに沿った支援に取り組んでいる。また、看取りではこれまでの生活歴や家族の思いを考えながら、できる限りの支援を行っている。日頃から利用者とのコミュニケーションを多くし、本人の思いや希望に把握し、役割や生きがいを感じてもらう生活を過ごしてもらうように支援している。利用者の尊厳の尊重やプライバシーを損なわないように、様々な場面で配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出入り口の見やすいところに理念を掲げ、声かけしながら役割と生きがいを見つけるお手伝いをする支援を行うように取り組んでいる。	職員が必ず目にする場所に掲示し、ミーティングの場面でも周知している。ケアプランを考えるときにも利用者の役割や生きがいを意識し、利用者同士で支援しあう場面が生まれるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、直接交流はしていないが、くろみ保育園の園児より、年賀状や敬老の日のプレゼントが届いている。	コロナ禍のため、交流の機会は少なく、こちらから外出したり、発信することはない。しかし、保育園児からのプレゼントをいただいております。今後施設からの交流の機会を増やしていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に一度、レインボーだよりを作成し、認知症の方に対して、どのような支援をしているのかを載せ、運営推進会議で配布している、		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、直接の開催は難しいため、文書にて入居者様の状況や取り組みなどを記載し、郵送し、ご意見などがあれば返送して頂くようにしている。	運営推進会議は行っていないが、2か月ごとに施設の様子、利用者の状況等を金沢市、家族の代表、民生委員に郵送している。家族からはコロナ感染への問い合わせがあり家族の思いを聞かせてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為、直接はしていないが、電話や運営推進会議の文書の中で、居室の空き状況や取り組みなどを郵送し連絡をしている。	市町村とは気軽に意見交換でき、協力関係は構築されている。利用者のことやコロナ感染への対応などで意見をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみに行っている。身体拘束のマニュアルやチェックリストを作成し、ユニット会議で振り返ったり、玄関には身体拘束適正化のための指針が有り、スタッフは目を通して	コロナ禍で外出の機会がなく、施設内で職員と利用者が過ごす時間が多くなったため、スピーチロックには特に気をつけており、その場で注意することもあれば、会議中みんなでも考えることもある。職員の意識の中にスピーチロックに対する意識が周知されてきている。	身体拘束適正化委員会の議事録を整備されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議で虐待防止のチェックリストを記入し話し合ったり、振り返りを行っている。 マニュアルがある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様がいるが、すべての職員が学んだり理解をしているとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長が入居時ご本人やご家族にどういうことに不安があるのかや心配事など尋ね、説明し理解や納得がえられるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情相談受付についてのポスターを掲示している。ご家族様から電話や来訪された際にご意見や要望などお聞きしている。本部へ直接連絡されるご家族様もいる。	電話や来訪時直接意見をいただくこともあり、本部に直接ご意見をいただいたこともある。意見は真摯に受け止め、施設全体で対応に気をつけていくことを話し合った。また利用者個々の要望にはその都度対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々の報告などで意見や提案があれば伝えている。代表者には管理者が本部会議で伝えている。	ユニット会議や日々の業務の中で、職員の意見等を聞いている。今年度は職員からの意見で昼食と夕食は総菜を外注することにした。その分利用者との関りを増やしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に3日公休希望を出すことができる。 資格手当や夜勤手当、処遇改善加算など手当の支給がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で資格取得の機会や外部の研修を受ける機会が減っており、スキルアップ出来る環境が整っているとは言えない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、同業者の訪問や勉強会は行っていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の中でご本人の困っていることや要望を聞き、安心して生活できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や来訪の際に会話の中から困っていることや不安なことなど聞くことで信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の際には、ご本人やご家族がどのようなことを望んでいるのかを聞き、どのような支援をしたらよいかを考え対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが入居者と一緒に掃除や洗濯たたみなどしながら会話し、共に生活する者同士として関係性を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様から電話があった時など近況報告や相談をしたりしながら、関係性を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会は減っているが、携帯電話を持っている方はご自分で連絡されている。	家族等の面会は玄関先で時間制限を設けて行っている。携帯電話を持っている人は自由に家族へ電話をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が会話しやすいよう、スタッフが間に入ったりし、出来るだけ孤立をしないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても連絡があれば対応している。過去に、退居された方の親戚の方が入居されていたこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から思いや希望をお聞きし把握に努めている。お話ができない方は、本人の視点に立って考えられるよう努めているが、全てできているとは言えない。	会話のできる人には、会話の中から思いや希望等を把握している。コミュニケーションが難しい方は、表情等から思いをくみ取るようにしている。施設として利用者との関りを大切に考えており、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様からお聞きした情報をもとに、これまでの暮らしなどを把握し、ホームでどのように過ごしたいと思っておられるのかを考えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を見ながら記録に残したり、ご本人の意思を確認しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見も聞きながら、ユニット会議で話し合い、介護計画の作成や見直しを行い、現状に合った介護計画を作成するように努めている。	ミーティング等で毎月利用者の状況について話しあい、必要時にはその都度プランを見直している。担当の職員とケアマネでプランを作成している。今年度は利用者の元の職業を活かし、他の利用者のお世話をすることによってその方の役割や生きがいを感じてもらえるようなプランを作成し支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、スタッフ同士申し送りやユニット会議で共有し、介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が病院の受診が難しいときなど、スタッフが一緒に行ったり外部へ受診の依頼をしたり、訪問歯科の往診依頼をしたりなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の床屋さんに来ていただいたり、週に一度ヤクルトさんに来ていただいたりしているがコロナ感染対策のため直接選んだりはできていない。近所のくるみ保育園から手作りの品やはがきをいただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様や入居者様のご意見や状況に応じ、かかりつけ医を決め、適切な医療を受けられるよう支援している。	施設には2人のホーム医がおあり、訪問診療を行っている。またこれまでのかかりつけ医を継続することも可能である。また専門医への受診は家族に依頼しており、日頃の情報等は電話もしくは書面にて提示し、適切に受診ができるよう支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	様子がおかしいときは報告し、指示を仰ぎ、普段でも何かあれば相談し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子や生活などについて情報を提供したり、退院時期などのについてもソーシャルワーカーさんや看護師さんへ連絡し、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医やご家族に状況をお伝えし、看取りの希望があった場合はホームでできることをお伝えしながら支援に努めている。	今年度は2～3人の看取りを行っている。施設でできること、できないことを伝えている。本人の様子はこまめにお伝えし、必要時は訪問看護も利用している。コロナ禍ではあるが、面会に関しても必要時は直接顔をみてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てのスタッフができているとは言えないが、急変や気になることがあればホーム長に連絡し、指示を受け対応している。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	全てのスタッフができているとは言えないが、緊急時にはホーム長に連絡したり、かかりつけ医に連絡をし指示を受けている。状況に応じ他のユニットのスタッフに協力をお願いし、対応してもらうこともある。	マニュアルは整備されており、連絡網も作られている。すぐに管理者や主治医に連絡ができるように体制を整えている。職員の力量に差があることは感じており、支援の内容次第では直接生命にかかわる場面もあり、定期的な研修や学習が必要であると考えている。	緊急時における初期対応についての、実技訓練を定期的実施されることを期待する。
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	24時間かかりつけ医の連絡できる支援体制は確保できている。	協力医療機関とは24時間連絡が取れるよう体制は確保されている。介護老人福祉施設等とはこまめな連携はとっていないが、必要時には依頼するよう契約を結んでいる。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間スタッフは1名だが、緊急時はホーム長に連絡し対応している。	3ユニットあり、夜間は各ユニット1名の配置である。緊急時にはユニット同士が連携し対応している。必要時は施設長に連絡し対応している。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフ全員が身につけているとは言えない。ホームの側溝があふれた際には止水板で対応したり、町内の方が来られ様子を見に来て下さるなど協力体制がある。	年に2回、夜間、日中の火災想定での訓練を行っている。大雨時には玄関に側溝からあふれた水が入ってくるため、止水板を準備している。町内との協力体制もできている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害時の食料や水分は整備してある。スプリンクラーや消火器や火災報知機などの設備がある。	非常食や水分の備蓄は行われており、服薬情報や主治医や家族への連絡網もすぐ持ち出せる準備はされている。災害についてもミーティングの場で検討しており、今後停電や断水の場合どのように対応するかを話し合っている。	停電対策の一つとして、各ユニットにカセットコンロを準備されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際はご本人に声掛けしてから入るようにしている。 入居者様との関係性もあるが、時には馴れ馴れしく話をしたり、不適切な声掛けになることもある。	関りが増えることでの馴れ馴れしきにならないかと常に気をつけており、親しさとのバランスに気を配っている。また、支援する中での無意識の傲慢がないか、プライバシーや尊厳を損ねていないかについて話をしており、利用者と支援者の程よい距離感を保つようになっている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が発言しやすいように心がけているが、入居者様全員にできているとは言えない。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで過ごしていただくようにはしているが、全て希望に添えているとは言えない。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助が必要な方には洋服を選んでいただいたり、爪切りや髭剃りも声掛けしたり、洗面のできない方はホットタオルで顔を拭くなど支援している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストを聞いたり、盛り付けにも配慮している。 下膳できる方はしていただいたり、お盆、食器拭きやテーブル拭きなどもももしていただいている。	今年度から、職員不足による支援の見直しから昼食夕食時は総菜を取っている。できる方には盛り付けや下膳をしてもらっており、利用者の希望を聞き、行事食に料理やケーキ作りを行うこともあり、利用者と一緒に楽しんでいる。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人にあった食事の形態で食べていただき、水分は声掛けし飲んでいただいているが、時には十分でないときがある。 コーヒーやヤクルト、スポーツ飲料なども飲んでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けをし、できない方はスタッフが解除している。 義歯の方は夜間は外していただき、洗浄剤で消毒している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩ける方は、排泄チェック表で時間を見ながら声掛けし、トイレにお誘いしている。	排泄パターンを確認し、声かけ誘導を行っている。本人のペースで支援を行っており、日中もベッド上で交換することもある。退院された方には以前の排泄パターンに近づくよう、取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘防止のため水分を多めに取っていただいたり、乳酸菌飲料や牛乳を飲んでいただいている。必要に応じ坐薬を使用することもある。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	必ずしも希望に添えているとは言えないが、できるだけご本人の意思を確認したり、体調を見ながら入浴していただいている。	どの方にも週2回の入浴支援を行っており、時間を決めず、利用者が気持ちよく支援が受けられるよう、声かけのタイミングに配慮している。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や様子を見ながらスタッフが声掛けしたり、ご自分で居室で休息されたりしている。電気の明るさを調整したり安心して眠れるよう支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイルに綴り確認できるようになっていたり、薬剤師さんに聞いたりし、スタッフ同士共有しているがすべてのスタッフが理解しているとは言えない。薬を内服する際はWチェックを行ない、誤薬が無いよう確認している。薬の変更があった場合は内服後の変化などをかかりつけ医や薬剤師さんに伝えている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌がお好きな方はお好きな方同士唄われたり、パズルをされたりしている。 たばこやコーヒーがお好きな方もおられ、気分転換できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出は控えていただいているが、外出が必要な時は感染対策をし外出されている。	必要な外出として受診をしてもらっており、コロナ禍でありほとんど楽しみの外出はできておらず、玄関先で外気を感じてもらっているのが現状である。しかしこれから天候を見ながら散歩などから始めていきたいと考えている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族と話し合いホームにておこづかいをお預かりし、必要なものは購入している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望すれば電話をかけたか、かかってきた場合はご本人に代わり話をしていただくよう支援しているが、耳が遠い方が多く、かかってくるのが少なくなっている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチンになっており、食事作りの様子やにおいなどがわかるようになっていたり、トイレがわかるよう表示したり、季節によって居間の装飾を変えたりしている。まぶしいときはカーテンで明るさを調節したり、温度も調節したりしている。	ご飯の炊けるにおいやみそ汁の香りは感じてもらっている。換気をするときに外気を感じてもらえるようにしている。施設内もトイレの場所の提示や季節感を感じてもらえるよう装飾には気を配っている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりテレビを見たり、仲の良い入居者様同士は席を近くにしたり、独りになりたい方は居室で過ごされたりされている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたタンスや洋服、ご家族の写真などを持ってこられている。	入居時にこれまで使っていたものを持ってきてもらうようお願いしており、タンス、テレビ、仏壇、椅子などを持ってこられている。また持ち物に関しても気軽に相談してもらえるよう日頃からお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札をかけたリトイレの場所がわかるよう表示している。 居間や居室には手すりがあり、歩きやすいようにしている。		